

為替週間展望 = ドル円は 107 ~ 108 円台で一進一退の動きか

[7月8日からの1週間の展望]

| 週間高低 (カッコ内は日) | | 7月1日 ~ 7月5日 | | | |
|---------------|--------|-------------|------------|--------|---------|
| | 始値 | 高値 | 安値 | 終値 | 前週比 |
| ドル・円 | 108.11 | 108.53 (1) | 107.53 (3) | 107.92 | +0.07 |
| ユーロ・ドル | 1.1370 | 1.1376 (1) | 1.1269 (3) | 1.1276 | -0.0097 |

=====

| 国内株・金利 / 米国株・金利 | | 終値 | | 前週末比 | |
|-----------------|-----------|---------|-----------|--------|--------|
| | 終値 | 前週末比 | 終値 | 前週末比 | |
| 日経平均株価 | 21,746.38 | +470.46 | 日本10年債利回り | -0.159 | -0.001 |
| ダウ平均株価 | 26,966.00 | +366.04 | 米10年債利回り | 1.950 | -0.074 |

=====

< 来週の主要経済統計等 >

- 8日 日本5月機械受注高、日本5月経常収支
独5月鉱工業生産指数、独5月貿易収支、独5月経常収支
- 9日 スイス6月雇用統計
- 10日 中国6月消費者物価指数、中国6月生産者物価指数
英5月鉱工業生産指数、英5月製造業生産指数、英5月貿易収支
米MBA住宅ローン申請件数
カナダ銀行 (BOC) 政策金利
米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事録 (6月18~19日分)
- 11日 独6月消費者物価指数
米6月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数
米6月財政収支
- 12日 中国6月貿易収支
日本5月鉱工業生産指数確報値
ユーロ圏5月鉱工業生産指数
米6月生産者物価指数

【前回のレビュー】ドル円は米中首脳会談や米国株や米長期金利の動きに左右されやすい展開が続く中、米国株が堅調で大幅な円高は進みにくいとみられるが、円安も大きく進みにくくなっており、ドル円は107 ~ 108 円台で一進一退の動きを見せるとした。

【米長期金利の低下がドル円の重石に】

6月29日に開催された米中首脳会談では、米国と中国は新たな制裁や報復を見合わせて、貿易協定を再開することで合意した。また、トランプ米大統領は米国が準備を進めていた対中関税第4弾の発動を先送りするとともに、中国の通信機器大手の華為技術 (ファーウェイ) に対する禁輸措置も緩和する方針を表明した。

これを受けて、週明けの7月1日にドル円は朝方に108円台半ばまで上昇したものの、買いの流れは続かず、108円台前半でのみ合いとなった。1日の日経平均は454円高となるなど、リスク選好の動きに傾いたが、翌日以降はその流れも続かなかった。

米中貿易協定は再開される方向だが、具体的な交渉の日程などは出てきておらず、徐々に楽観論も後退しつつある。また、米国の株高を支えているのは米連邦準備制度理事会 (FRB) による利下げ期待が中心となっている。3日には6月の米ADP雇用統計

計が予想から下振れしたことで、利下げ期待の高まりから、N Yダウ、ナスダック、S & P 5 0 0は過去最高値を更新した。

世界的な景気減速への警戒感から米10年物国債利回りは3日に一時1.94%割れまで低下した。これを受けて、ドル円は107円台半ばまで下落した。下げが一服すると、107円台後半まで下げ渋りを見せ、その後も同水準でのみ合いが続いている。C M E F E Dウォッチによると、7月の米連邦公開市場委員会（F O M C）での利下げ確率は100%となっている。約70%の確率で0.25%の利下げ、残り30%前後の確率で0.50%の利下げとなっている。

米国株は堅調ながらも、これは利下げ期待によるところが大きい。米長期金利は低下傾向にあり、これがドル円の重石となっている。ただ、107円を割り込んで下げるほどの弱さもない。このため、目先は107～108円台で一進一退の動きになるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、106.80～108.80円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、8日に日本5月機械受注高、日本5月経常収支、10日に米M B A住宅ローン申請件数、米連邦公開市場委員会（F O M C）議事録（6月18～19日分）、11日に米6月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数、米6月財政収支、12日に日本5月鉱工業生産指数確報値、米6月生産者物価指数などがある。

【次期E C B総裁はI M Fのラガルド専務理事】

2日に開催された欧州連合（E U）首脳会議で、欧州中央銀行（E C B）の次の総裁に国際通貨基金（I M F）のラガルド専務理事が就任することとなった。ユーロ圏の景気は減速が警戒されており、E C Bの金融政策は緩和方向へ向かいつつある。こうした中、新総裁のもとでは利下げや量的緩和の再開などが期待されている。

ユーロドルは7月に入り、上値の重い展開となっている。米中貿易摩擦への警戒感が後退してことで、ドルが買われたことやユーロ圏の経済指標に低調なものが散見されることが、ユーロの上値を抑えておる。また、ドイツの10年物国債利回りが過去最低水準を更新していることもあって、ユーロドルはさえない動きを見せている。この流れが継続して、ユーロドルは軟調な流れで推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1180～1.1350ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、8日に独5月鉱工業生産指数、独5月貿易収支、独5月経常収支、9日にスイス6月雇用統計、10日に中国6月消費者物価指数、中国6月生産者物価指数、英5月鉱工業生産指数、英5月製造業生産指数、英5月貿易収支、カナダ銀行（B O C）政策金利、11日に独6月消費者物価指数、12日に中国6月貿易収支、日本5月鉱工業生産指数確報値、ユーロ圏5月鉱工業生産指数などがある。

（ミンカブ 佐藤昌彦）

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。

